

山口 晴温（やまぐち・せいおん）

1、プロフィール

郷土の風景や風俗、芸能、童戯などをテーマに版画や墨彩画などを制作し、画集のほかに、児童図書などの挿絵を数多く描いた。中でも、北彰介の文とのコンビで誕生した「こぞっこまだだが」は海外語版も出版されるなど、高い評価を得た。文章と画を手がけた童話作品集も残している。

<生没>

1926(大正 15)年 12 月 15 日～2008(平成 20)年 4 月 13 日

<代表作>

画集『山のうたー森林作業の記録ー』『板画岩木山百景』『季節の風物詩 物売りスケッチ』。文章も手がけた童話作品集『ガラスに咲いた花』。挿絵では、新美南吉著『ランプと胡弓ひき』、北彰介著『こぞっこまだだが』、斎藤正著『童戯の古典』、吉村和夫著『思い出の駄菓子ッコ』、児文研編『青森県昔話集成』、鈴木喜代春著『十三湖のばば』。

<青森との関わり>

青森市に生まれ、青森市立古川小学校入学。五所川原市立羽野木沢小学校卒業。終戦後から亡くなるまで青森市に住む。昭和 22 年「青い森社」で雑誌「むつの子」の編集に参加。同 27 年～58 年、東奥日報社勤務。

2、作家解説

1926(大正 15)年、青森市生まれ。本名山口達男。小学3年の時に亡くなった父は宮大工だった。神奈川県工業青年学校卒業後、1946(昭和 21)年の日本童画会入会が縁で、佐藤米太郎・米次郎兄弟経営の「青い森社」に入社。児童雑誌「むつの子」の編集を担当し、児童文学の世界に関わっていく。また、版画家であった佐藤兄弟の手ほどきを受け、木版道の道に進む。1952 年東奥日報社に入社、写真修正や図案を担当した。

1953 年日本板画院展に初入選、O 夫人賞受賞。2年後同院展最高賞である華厳賞を受賞、1961 年同院会員に推挙される。

1960 年に北彰介が発足させた「青森県児童文学研究会」(略称児文研)に参加、この頃から「晴温」の雅号を用い始める。『童戯の古典』、『津軽のわらべうた』など児文研が発行した数多くの本に、挿絵を描いた。中でも『こぞっこまだだが』(文・北彰介)は、英語・ポルトガル語・スペイン語版も出版され、同じコンビの『せかいいちのはなし』は国語教科書に採用された。1980 年、文章と絵を手がけた童話作品集『ガラスに咲いた花』を出版。新美南吉や鈴木喜代春らの児童書などにも挿絵を描いた。

1988 年、日本美術出版企画展でアートワールド大賞、サロン・ド・パリ展でオアレテ・コングレ賞を受賞し、同展会員となる。1993 年ニューヨーク彩珠会創立記念展に招待出品、1997 年国際芸術文化賞、2001 年オーストリア「宮廷芸術会員」推薦。

2005 年青森県近代文学館で「北彰介・山口晴温展」を開催。逝去した 2008 年には青森市民美術展示館で「追悼・山口晴温展」が開かれた。生前「失われていく風物、風俗を書き残し、白黒版画で雪国に暮らす人々の、生きるたくましさおよびよこびを表現したい」と語った山口は、わらべ遊びや玩具、駄菓子や物売り、森林作業などの郷土の暮らしを、味わいのあるタッチで描き残した。1989 年青森市民顕彰、1991 年青森市民表彰、1995 年青森県芸術文化振興功労賞受賞。

3、資料紹介

○画集「山のうた－森林作業の記録－」

図書

1975(昭和 50)年2月 10 日

267 mm × 385 mm

昭和 33 年から当時の青森営林局局報「青森林友」の表紙絵を担当し、以来 10 年にわたり県内の国有林事業所を丹念に取材。造林育成から木材生産、治山、土木事業などで北国の山でひたむきに働く人々の姿を伝えたいとの思いから、山の画譜としてまとめたもの。版画の他に水彩画やスケッチ、説明文が収められ、

現在では消えてしまった森林作業の貴重な記録にもなっている画集である。東奥日報社発行。68 ページ。4,000 円。